特集 地域の個性を活かした観光まちづくり（先進都市現地調査）

群馬県　県土整備部　都市計画課

平成28年11月10日(木)に、群馬県都市計画協会主催の先進都市現地調査を実施しました。長野県長野市の「歩いて楽しいまちづくりの事例」と、「地域の個性ある歴史や文化を活かしたまちづくりの事例」について調査を行いました。

■善光寺表参道地区

善光寺表参道地区は、長野駅から善光寺に至る中心市街地の主軸となる通りであり、古くから市民や観光客でにぎわってきました。しかし、モータリゼーションの進展や人口減少などの社会情勢の変化により、通りはかつてのにぎわいを失っていったそうです。

長野市では、中心市街地のにぎわいを再生するため、歩行者優先道路化事業を主要施策に位置付け、中央通りを車中心から歩行者にやさしい道路に転換し、まちなかの回遊性を向上させ、歩いて楽しい通りを目的に事業を展開しました。

現地調査では、景観に配慮され、拡幅された歩道に地元住民の管理する花やベンチ等のおもてなし表現が見受けられ、観光客が回遊するにぎわいのある街なみを視察できました。

花やベンチによる“おもてなし表現”

ぱてぃお大門(テナントミックスによる新しい商業施設群)

■松代地区

松代地区は、歴史的文化遺産が豊富にあるにもかかわらず、長野市の中に埋没し、その資源を十分に活かせず衰退していたそうです。長野市は、松代の中心市街地活性化のため、住民の参加を得て、「長野市松代地区中心市街地活性化計画」を策定しました。この計画は歴史的文化遺産を活かし、松代全体を博物館として捉えて活性化していく“信州松代まるごと博物館構想”としてまとまり、「城下町らしい街並み整備」「観光商業の推進」「おもてなしの心の推進」「人に優しい道路環境の整備」の４本の柱のもと30事業が盛り込まれて国の認可を受けました。

城下町らしい街並み

地域資源の再発見や景観住民協定など、さまざまな取り組みによって、町内に「点」として分散していた歴史的文化遺産が「線」としてつながり、更に「面」をなしており、町全体が『まるごと博物館』となっている街なみを散策することができました。